

イマヌエル教報

2021.

11

1947年7月1日第三種郵便物認可 2021年11月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.904

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

あなたは知らないのだから

神学院院长 林 正弘



「朝にあなたの種を蒔け。夕方にも手を休めてはいけない。あなたは、あれかこれかどちらが成功するのか、あるいは両方とも同じようにうまくいくのかを知らないのだから。」

（伝道者 一一・六）

九月から十月にかけて、新型コロナウイルスの感染者数が目に見えて減少しました。その要因として、ワクチン接種率が上がったなどいくつかの可能性が挙げられていましたが、結論は、専門家もよく分からない、特定できない、という話でした。理由が分からないのはすっきりしませんし、このまま収束に向かうのか、第六波が来るのかの予想もできません。

私たちは、インターネットなどを通してさまざまな情報を容易に得ることができるようになり、分からないことがあればすぐに調べて答えを見つけないという風に慣れてきました。逆に言うと、分からないということを受け入れにくくなっていくように思います。しかし、専門家でも分からないことがあります。私たちには分からないことはいくつでもあります。私たちはその現実を正直に受け止める必要があります。

分からないことに直面して、なんとか答えを見出すと努力することがあるでしょう。科学の世界では当然の営みです。逆に、どうせ分からないのだからと、あきらめたり、責任を放棄したりする人たちもいることでしょう。聖書は、分からないという現実をへりくだって認めるとともに、それでもできるだけのことをするように勧めています。伝道者の書では、地上でど

んなわざわざいが起こるかをあなたは知らないのだから、受ける分を七、八人に分けて備えておくようにと語られています。どちらが成功するのか知らないのだから、朝に種を蒔き、夕方にも休まずに力を尽くすように命じられています。

感染者数の減少により、自粛要請やさまざまな制限が緩和されてきました。しかし、この先どうなるかを私たちは知りません。クリスマス頃のどのような状況になっているのか私たちには分かりません。それでも準備に取りかからなければなりません。来年どのような状況になるのか分かりませんが、計画を立てていかなければなりません。なかなかむずかしいことですが、コロナ禍でなかったとしても、私たちは将来のことなど分からないのです。どの選択が最善なのかを知らないのです。それでも私たちは前に向かって進んでいかなければなりません。そのとき、私たちは様子をみるだけで何もしないのではなく、すべてを知っておられるお方に信頼して、いま自分にできることを懸命にしていきたいと思っています。

私たちが知らないということは、決してマイナスではありません。むしろ、私たちに主の前にへりくだる機会を提供し、主のみこころを求める姿勢を養い育て、主に信頼して積極的な事を行うように導くものです。クリスマスに向かい、新しい年に備える時期を、知らないことの恵みを味わいつつ過ごすことができましたならば幸いです。

目次

- あなたは知らないのだから……林 正弘……1
- 宣教聖日、同窓会セミナー、JOMAフォーラム……2
- 関東聖化大会、教育局運営委員会、厚生研修会……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、出版事業部……4
- 組織改革検討チーム、信徒フォーラム案内、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

世界宣教聖日について

今年の宣教聖日は11月21日 世界宣教のために 祈りと献げ物をもって

世界宣教局長 田辺寿雄

今年の世界宣教聖日は、11月21日(日)です。ぜひこの日の礼拝は、「宣教聖日礼拝」としておさげくださり、全国の教会とともに世界宣教のためのお祈りにお加わりくださいますように、心からお願いたします。

11月初旬に局より各教会にDVD、祈祷課題、宣教コイン献金用のシートなどをお送りいたします。DVD・ビデオについて

今年のDVDは、局長挨拶、今年台湾に派遣された久保宣教師ご夫妻のお証し、宣教コイン献金の報告とお願ひ、各宣教師の近況報告、宣教メッセージ(局長)という構成です。礼拝や祈祷会でぜひご活用ください。それぞれの教会の事情や必要にあわせて、部分的に視聴して頂いたり、何度かに分けて視聴して頂いても結構です。

●宣教コイン献金について

昨年から貯金してくださった宣教コイン献金を教会にお持ちください。各教会での集計作業も大変かと思いますが、ボランティアを

募るなどして一部の人だけにご負担が集中することがないようにしていただけたらと願います。

宣教コイン献金シートを作成しました。貯金箱として使う缶や瓶に巻き付けてお使いください。今回はケニアの写真が使われています。一円、五円、十円などを少しずつお献げください。各ご家庭で、あるいは個人でお取組みいただけます。小さなお子さんにコインを入れるお仕事をお願いするのも尊いことかと思ひます。また、教会でも貯金箱を用意し、月々の宣教祈祷会のたびにコイン献金を献げるなど、ぜひ工夫してみてください。少しでも楽しく取り組んでいただけたらと思います。

●祈祷課題について

今年も祈祷課題をご用意します。必要な枚数を各教会で印刷してください。宣教聖日礼拝で、あるいは宣教祈祷会で、この祈祷課題を使って皆さんでお祈りください。

●世界宣教聖日について

何と言っても宣教聖日の醍醐味は、全国の教会が同じ日の同じ時間に、心を合わせて一つとなつて、世界宣教のために祈ることです。教会が、そして私たち一人一人が宣教師を送り出しているということをお思い出ししょう。映像を通して同僚宣教師の報告やお証しを関心と祈り心をもって聞きましよう。宣教のメッセージとチャレンジを受けとめて、自分には何ができるかを考えてみましょう。ご協力をよろしく願ひいたします。

同窓会セミナー最終案内!

会長選挙締切間近 セミナーは16日開催 参加申込登録は お済みでしょうか!

副会長 葛田直毅

いよいよ神学院同窓会が開催されます。直前のご案内です。

▽会長選挙について

締め切りは11月14日となっておりますが、開票は15日の午前10時です。郵便局の土日の配達がなくありませんので、「12日必着」でお願いいたします。

▽登録について

登録期限は過ぎましたが、まだ登録はできますので、参加をご希望の方は登録ください。オンラインでの登録となりますので、ご自分の登録が難しい方は、ご遠慮なく浜松教会の葛田までお尋ねください。セミナー(石田学師)は午前10時/午後7時半、総会は午後2時(すべてオンラインで)。登録フォームに「18日」と表記されていましたが、開催日は「16日」です。失礼いたしました。

▽参加費は無料です

今回は参加費は無料です。年会費や献金は各自、ご送金をお願いいたします。詳細は「アラムナイ・ニュース」をご覧ください。色々のご不便をおかけしますが、ご参加いただければ感謝です。

JOMAフォーラム……

海外宣教連絡協力会 主催 過去を知り、過去に学び 今に生き、将来に向かう

富士見台教会 野田 禎

JOMA(海外宣教連絡協力会)はインマヌエルを含め19の団体によって構成されています。

このフォーラムは「過去を知り、過去に学び、今に生き、将来に向かう」というのがテーマでした。

10月15日、16日にZoomで行われ、15日は140名、16日は100名ほど、教職者だけではなく、信徒、青年も参加していました。15日は「派遣される側から」の視点で過去を学ぶということで、元宣教師の奥山実師、竿代照夫師、牧野伊豆師の証し、パネルディス・カシオンがありました。

竿代師は中学校2年時の宣教会でエステル記から献身を考え、大学2年の講義の中で海外宣教を志し、またどのようにケニアに導かれ、神様がケニアで素晴らしいことをして下さったか、また若い頃「献身できる」ということは名誉なことだと思っていた」と語ってくださいました。

アンケートには、神学校の授業のために竿代師の証しが聞けな

かったのでぜひ聞きたいというものもありました。多くの方にお証しを聞いて欲しいと願っています。16日は「派遣する側から」の視点で過去を知り学ぶ、というテーマで内村サムエル師、福田崇師として野田が証しをしました。

インマヌエル教団は葛田二雄牧師が神様の導きで教団を設立するときに、国内と国外の伝道を進める、主の大宣教命令をしっかりとらえ、聖と宣を大切にしながらまで伝道してきたという宣教の歴史を語り、また国外宣教局が宣教師を送っているのではなく、インマヌエルの教会、信徒一人ひとりが祈り、宣教師を送り出しているという意識を大切にしていること、その取り組みを語りました。

このフォーラムで福音船、ロゴス・ホープ号に乗っている青年宣教師、中道実由香先生の証しも印象的でした。牧師家庭に育ったけれども、教会から離れ「放蕩娘」であったと仰っていました。神様の特別な導きで信仰に回復され、福音船のスタッフとして活躍されています。主を信頼し、理解をしないで信じることを、選択の大切さ、B.G.F.M.(柔軟性、適用性、教えられ易さ)が語られています。南米の洋上からの語りかけは、特に若い方々、PK(牧師子弟)、自分と同じような人への励ましになればと語っておられました。

青少年のキャンプで先生のお証しが聞けたら幸いだと思いました。次回セミナーは来年の春です。

聖化の宣証を目指して 第36回 関東聖化大会を開催 今もオンラインで配信中 主の愛の御手の中で

越谷教会 川村和臣

10月19日(火)、第36回の関東聖化大会が、昨年に引き続きオンラインで行われました。「主の愛の御手の中で」変えられ、遣わされ、育てられ」というテーマで恵みの時が持たれました。

講師は日本ホーリネス教団辻堂キリスト教会牧師、島津吉成師でした。

第一回の聖会では創世記三二・22～32節から「新しい人へ」と題して、ヤコブのペヌエルの出来事からみことばが取り上げられました。人生の危機が私たちには常にあります。これも神からの恵み。ヤコブは、①自己中心から、神中心に変えられた。神は、ヤコブの信仰の勝利を認め「新しい人」とされた。彼は自分ではなく神が戦ってくたさるという生き方へと変えられた。②神の臨在に生きる者へと変えられた。足を打たれたヤコブ。神の臨在に生きるとは特別な人ではなく、神の恵みがその人を照らしていること。弱さもあるが、神が働

いてくださる所に主の御業がある。③人を祝福する者、和解の務めを行う者と変えられた心からエサウに詫言いたヤコブ。すると神はエサウをも変えられた。私たちが変えられると相手も変えられる。そこに和解がある。

第二回目の聖会では、創世記四五・1～15節から「摂理の神に導かれ」として、ヨセフの生涯から、①神の摂理とは何か。神の摂理とは良い目的をもって私たちを導いてくださること。それを信じて生きることをヨセフの生涯は教えている。神はすべての事を益とされる。②神の摂理を受けとめようとしても、そのまま受けとめられないことがある。そうした時は、悲しみに蓋をしないこと、十字架と、特に復活を想うこと、そして苦しみや悲しみの中に神が宝物を隠しておられることを信じたい。③神の摂理に生きるために神が私たちの人生の主であることを認めよう。そのようにささげる私たちを神は共に働く者として用いられる。神は人を通じて御業をなさる。神の視点で私たちの歩みを見直し、その神を信じて立ち上がろう。

これらのメッセージを講師の体験も交えて語っていただきました。また、幸いなきよめの証しや神学生生オンライン合同賛美のプロゲラムもありました。聖会に先立って、女性大会もオンラインで開催されました。いずれも、JHAのホームページから視聴できます。ぜひ、ご利用ください。

教育局運営委員会……

青年たちの育成に注力 コロナ禍にあつて オンラインで開催

教育局長 小川宣嗣

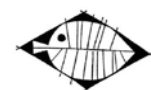
10月4日に持たれた局運営委員会での協議内容をお伝えします。

教育部・生涯学習課からは、7月の若手牧師研修会報告、10月に持たれた有志牧師対象の「きよめ」をテーマとする研修会に関する準備、今後の研修プログラムの方向性や可能性について報告されました。同・信徒教育課から、8月末の信徒伝道者スクーリング報告、また2名が必要な単位数の学びを終了して認定に進まれるとの報告を頂き、御名を崇めました。

青少年部・青年課からは毎月の「ビルド」の活動報告、5月YSBリトリート、6月マ…(西日本ブロック青年大会)、9月九州青年大会等の報告、同・中高生課からは8月12～13日にオンライン開催された第14回とにキャンとそのアンケート報告、同・教会学校課からは子ども用洗礼準備のしおりや新企画のトレーディングカード作成プロジェクトに関する報告等がなされました。併せて、各課の会計処理に関する調整がなされました。なお各活動が御心の内に導かれますようお願いください。

厚生委員会の活動……

ひと足先の未来を 考える研修会



厚生部長 北田直人

昨年コロナウイルスのために実施できなかった研修会を呉ベタニアホームで行ないました。

●主なプログラム

9月27日
ケアハウスの概要説明
入居者を囲んで聞く
施設見学

9月28日(オンライン)
代表のメッセージ
認知症についての学び
施設見学(録画)、説明
入居者に聞く

●参加者の感想

現地参加者は大山祥子先生お一人でした。2日目は16名の先生方がZoomで参加されました。

今回、ご夫妻で参加された先生方が3組おられました。ご夫妻で共に学び、一歩先を考える時を持たれたのは、とても良かったのではないかと考えております。

参加者からは、「実際に入居されている先生のお話を伺えて良かった」、「自分のためにも、また



接する方々のためにも、認知症について学ぶことができて良かった」、「『ひと足先の未来』の不安が解消されて良かった」、「もう少し若い先生方にも、このような機会が設けられたら、将来を見据えることに役立つのではないでしようか」等々の感想が寄せられました。

●施設見学(録画)

28日に使用した録画データはYouTubeにアップロードしましたので、他の先生方も施設の様子をご覧いただくことができます。

●研修会の目的

先生方に少しでも長く奉仕をしていただくため、ご自分の状態を知っていただき、より良い状態で伝道、牧会にあたるための手助けをさせていただくことを目的とした研修会です。原則、参加していただくことを願うので、研修会です。案内を受け取られたら、ぜひご参加ください。

国内教会局から

コロナ禍にある教会
慣れすぎに注意しよう

コロナ感染がひと段落するとともに規制が緩やかになり、いろいろ動き始めています。「ウィズ・コロナ」が浸透しつつあり、今ではすっかりコロナに慣れてしまったような気もします。教会も同様に、短縮礼拝や



オンライン配信を始めたころは、どうなるだろうか、これでいいのかとかなり気を揉んでいましたが、今では当たり前になってきました。しかし、慣れ過ぎて今の状態が当たり前になると、今度は立ち止まって考えたり、問題意識を感じない危険性もあるでしょう。

ウエスレーは日課として自分の歩みを主の前で吟味し、情性に流されることはありませんでした。日々神の前に出続け、朝ごとに新しい力を得て過ごしました。私たちも慣れ過ぎに注意して、絶えず神の前に出て、日々新鮮な恵みを受ける営みを大切にしましょう。そうすれば今の混沌とした状況の中でも御心になった新しい道を見出せるかもしれません。

(阪下謙)

■「アマゾン」が中国アップルストアから聖書などのアプリ削除
「アマゾン」の書籍読み上げサービス「オーディブル」は10月15日、中国本土のアップルストアから聖書とコランのアプリを削除した。当局から「必要な許可」が得られていないことを理由に挙げたと大紀元時報（日本語）。

駐米中国大使館の劉鵬宇報道官は、特定のアプリの削除について具体的な回答は避けたが、中国政府は「インターネットの発展を常に奨励し、支持してきた」と述べ、「中国でのインターネットの発展は、中国の法律や規制にも従わなければならない」と付け加えた。

近年、中国共産党はオンラインにおける情報サービスの検閲を一層強めている。マイクロソフトは10月中旬、ビジネス向けソーシャルメディア「リンクトイン」を今年後半に停止することを発表。「中国での運営環境が著しく厳しくなり、コンプライアンス要件が高

対する人権侵害を記した。

■ハイチの米国人宣教師誘拐、FBIが捜索協力
ハイチの首都ポルトープランスからロイター通信。ハイチを訪れ



海外トピックス

まっている」ためだという。

米国の国際宗教自由委員会（USCIRF）は2021年の年次報告書で、中国政府によるキリスト教徒とウイグル人イスラム教徒、チベット仏教徒、法輪功学習者に

ていた米国人とカナダ人の宣教師の一人が誘拐され行方不明となった事件で、米ホワイトハウスの報道官は10月18日、現地の外交官チームによる捜索に連邦捜査局（FBI）が協力していると明らかにした。

カリブ海の島国ハイチでは18日、当局が宣教師の誘拐事件について沈黙を守る中、誘拐多発に抗議する市民のデモが各地で繰り広げられた。ポルトープランスでは運送業界幹部がストライキを呼び掛けたのに応じ、小売り店舗や学校がこの日閉鎖された。

宣教師たちは米オハイオ州ミラズバークにあるキリスト教援助団体「クリスチャン・エイド・ミニストリーズ」に所属し、ハイチの児童養護施設を訪れていた。米国人16人とカナダ人1人が誘拐された。治安問題の専門家はハイチのギャング「400マオゾ」による犯行だと指摘。

(平瀬聡樹)

出版事業部から

洗礼願書／教会原簿／転会状

PDF版でお届けします

デジタル時代に相応しく

出版事業部 矢木良雄

「ご不便をおかけして申し訳ありません。洗礼願書／教会原簿／転会状を新しくしました。個人の情報に十分配慮すべき時代になりましたので、それに相応しく内容を改めました。洗礼願書では、洗礼を受ける信仰の決意を告白するような文言を入れました。備考欄には入信や受洗に際し与えられた聖句を書き込むようにしてあります。捺印をやって、ご本人の署名に変えました。また、これまで当たり前だった本籍を省きました。代わりに出身の都道府県名を記入していただいて、教会での交わりに活用していただくようにしました。家族欄も変更しました。それぞれの状況に合わせて書いていただき、また万一のことを考え緊急連絡先も記入していただくようにしました。これからの牧会に活用できる内容を盛り込みましたが、さらに改善点がありましたらお知らせください。転会状はあまり変わっていません。教団によっては名称が「転会状」ではなく「薦書」となってい

ます。それに合わせて括弧書きですが併記しました。裏面の転会者の情報も、本籍を省くなど少し整理してあります。

教会原簿は大きく変えることをしませんでした。これまでの原簿との一貫性も必要と考えました。これまで通り余白も十分に取ってありますので、適宜必要と思われる事柄を書き入れていただけたらと思います。

原簿に関してはPDF版で提供させていただきますが、本部の佐藤信行先生に依頼し、WORDのテンプレート版を作ってもらっています。そうしますとパソコンでそのまま記入できます。デジタルデータとしても残せますし、プリントアウトして綴じていただくこともできます。テンプレート版は制作中ですのでもう少ししばらくお待ちください。洗礼願書／転会状は原則として手書きになりますので、テンプレートは作りません。

これらの洗礼願書／教会原簿／転会状が必要なのは、本部にご連絡いただきますとメールに添付してファイルを送りたいと思います。今回は、最初だけ教区主事を通して全国の教会にお届けします。PDF版になっていきますので、それぞれプリンターで印刷してお使いください。もし難しいようでしたら、本部でプリントして郵送することもできます。必要な枚数を本部にご連絡ください。

PDF版での提供になりますが、ご活用いただければ感謝です。

組織改革検討チーム

ヒアリングを重ねてきました
今の教団を活かすには
どうすべきかを考える

立川教会 佐藤信行

「このわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。……それを行なうなら、あなたがたは幸いです。」

(ヨハネ一三・14、17)

昨年6月の年会において、組織改革検討チームの任命を受け、これまでほぼ2回のペースでチームでの会合を重ねて来ました。来年3月の年会までが任命期間となりますので、あと残りわずかとなり、余裕はありませんが、現在はいままでの段階に入った所です。

チームが立ち上げられて最初の半年間は、決して組織改革に精通していると言えるような立場ではなかったのですが、まずこれまでなされてきた組織改革の検討や種々の議論を、知り、理解し、整理する所からスタートしました。それと並行して、各メンバーが現状の組織の中で気づく問題点や改善案などを話し合う期間としました。

その後、今年に入ってから、

会合の2回に1回のペースで、実際にこれまで教団内でさまざまな責任を担って来られた、または現在も担っておられる器方に、課題や展望などをヒアリングする時を持ちました。全体アンケートのように、全員に万遍なくとは行かない形態ですが、限られた中にも、常に事案を処理しなければならぬ各部署の会合とは少し距離をおいて、ヒアリングの機会を持ったことは、今回の検討のためのみならず、これまで各部署の責任を担われた器方にも必要なことではなかったかと感じています。

最初に記したように、現在はいままでの段階に入っています。一体どんな改革案が出て来るのかと期待というよりも警戒しておられる方もあるかもしれません。検討の中でも話題となりましたが、改革疲れや行き詰まりのようなものが教団のみならず、どの組織でも、社会全体にあるように思います。

実際、検討を重ねる中で、常に各部署、各教会、各人の問題対応をきめ細かく考えれば、組織形態はより大きく、複雑化する方向に動きます。しかし、ご承知のように限られた担い手の中で、いかに問題を放置せずに、全体が協力して動くことができるかはどの組織でも非常に難しい課題となります。できることはわずかですが、この検討が実際にこれから皆で取り組んで行くためのたたき台となり、示唆となることを願っています。引き続きお祈りにお覚えください。

11月23日に開催

第一回信徒フォーラム
テーマ「家庭と教会」

壮年部 池田光重

2001年、第一回壮年部全国大会が東京で開催され、順次会場を別府、大阪に移して開催されました。大阪大会以降十数年、全国大会は中断されたままでしたが、その後、信徒局が創設されたことから、牧師や女性部も含めたインマヌエル全信徒を対象とした「壮年部全国大会」を継承する形で、全国大会開催の企画がなされました。当初2020年開催予定でしたが、コロナ禍故、約1年半延期し「第一回インマヌエル信徒フォーラム」としての開催となりました。

講師は日本同盟基督教団理事長で東京キリスト教学園理事長の重責にある朝岡勝先生が引き受けて下さいました。この時代、クリスチャンとして生きる私たちに「家庭と教会」をテーマにご講演いただき聴くだけでなくお互いがこのテーマについて考え、語り合う機会となるよう期待しております。

詳細につきましては既に配布されました案内チラシや教団HPをご覧ください、オンライン開催ですが、各教会に集まって交わりの時をもっていただければ幸いです。



わたしのクリスト

▼「いつか、聖地旅行に行きたいね。」そう誘ってくれる家人の気持ちは素直にありがたい。しかし、自分の中では一向に現実味を帯びていかないのは、どういうわけだろう。時折、映像で知るイスラエルの風景が脳裏をかすめるが、行けるのなら今からでも、という強い衝動は、残念ながら起こってこない。無論、時間や金銭のことなど高いハードルは幾つもある。行けば聖書の世界が一変する、と聞かされている。確かにそうなのだろうが、行動には当分つながらないな、と妙な予測が立つ。クリスチャンなのに、ましてや牧師が……そんなこともふと思ったりしながら、実現するその日を遙か遠くに夢見ている。▼最近、若松英輔氏の『沈黙のちから』(亜紀書房)を読んだ。その中で若松氏は、文豪・芥川龍之介を取り上げている。随想『西方の人』を紹介し、芥川のキリスト経験に触れていく。芥川にとってキリストは愛さずにはいられない存在だったと評する若松氏は、自身の信仰理解(彼はカトリック教徒)を盛り込みながら、芥川の言う「わたしのクリスト」という表現に注目して、芥川の文章を引用する。「日本に生まれ

た『わたしのクリスト』は必しもガリラヤ湖を眺めていない。赤あかと実のつた柿の木の下に長崎の入江も見えている。」芥川は、自分が「わたしのクリスト」を語るとき、「歴史的事実や地理的事実を顧みないであろう」と書いているというから、実に大胆だ。それ程に芥川の「クリスト愛」は決定的だったのだろう。さらに若松氏は書いている。「たしかに芥川は、二千年前のガリラヤ湖畔でイエスが語る声を聞いてはいない。しかし、彼は長崎の入江に復活のクリストを『視ている』。」▼ポストコロナのこれからを生きるために「本を読む」ことを、しかも所謂古典と呼ばれる書物との「会話」の必要を強く感じて発信し続ける気鋭の批評家の論評に、少し慰めてもらったような気がする。ガリラヤの風を直に身に受けることへの仄かな憧れを胸に収めつつ、ただ、今は、この時にこの場所でキリストの贖いの恵みをいよいよ知り、キリストとともに生きることの幸いを十分に味わわねばと思う。信仰の導き手であるお方を「私の主」(ヨハネ一〇・28)と事あるごとに仰ぎながら。

(南場安正)

巻頭言

宣教は「私たち」を通して

世界宣教局
葛田敬子

広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「神が私たちを祝福してください。地の果てのすべての者が、神を恐れますように。」(詩篇67:7)
宣教月間を迎えました。この一年も多くのお祈りと献金、様々な

形に表された愛をもって、宣教の働きをお支えくださり、共に戦ってくださった皆様に心より感謝を申し上げます。21日の宣教聖日に合わせて、今年も宣教ビデオをお届け致します。コロナの感染拡大や、国際情勢の変化の中、各宣教会において、主がどのように働いてくださるか、皆様のお祈りがどのように応えられているのか、ぜひご覧ください、共に主を讃美させていただきますと思います。また、さらに理解をもってお祈りいただきたく願います。

問団に参加されたかと思うと、心に高鳴りを覚えます。空港に降り立った時のムツとする空気、匂い、さざめきのように耳に飛び込んでくる聞きなれない言語、笑顔で近づいてくる人は敵なのか味方なのか、という緊張感……その場に行って初めて共有できる宣教師の日常や異文化の実情を経験された方々が、あちこちの教会にたくさんおられるということを考えるのは、本当に楽しく、励まされることです。教報の宣教師の報告を読む時、「ああ、あのことね」と少なからず理解し、何を祈るべきかをわかってくださる方々、と言えるのかもかもしれません。もちろん直接聞きする機会がなくても、深い洞察力をもって祈ってください。方々がおられることも事実ですが、知らないということや想像力が少し足りないことから生まれる誤解や勘違いも少なくはないですから、宣教の働きを考えると、「もつと知りたい」と思いと共に、自分の教会と、そして自分自身の毎日と、しっかりと繋がった働きであり、私たち皆がその宣教の働きの一部として用いられていることを喜びをもって理解することができれば、感謝ですね。どの文化や宗教の下に生きて来られた方々であっても、「地の果てのすべての者」の神であられる御方は唯お一人であり、遠い海の果てに住む方も、職場で机を並べる方も、神に愛され、その愛を「私たちを通して」神が知らせようとしておられることを。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2021年10月7日

フィリピンではコロナのデルタ株が猛威を振るい、各地で感染による死亡者が出ています。

私たちにとって身近な人たちにもその猛威は及び、マニラ日本語キリスト教会を早期から支えてこられ、またフィリピンに赴任以来、いろいろな面で私たちを助けてくださった日兄、またロサリス教会が属するこの教区の教区長メルチャ・アキノ先生がコロナ感染で召天されました。お二人に共通するのは酸素の供給が十分に行われなかったこと、またアキノ先生に至っては入院ができず、十分な治療が施されなかったことがあげられます。お二人のご遺族のために主の慰めと励ましを祈るばかりです。

私たちが住むロサリスでも市場への買い物の制限(外出許可証の提示、週3回まで等)が再びかけられ、夜間外出禁止も継続されています。



し始めた在比邦人に対するワクチン接種事業はこれまでにマニラ(ロザリスからは200キロの距離)で2回、セブ島で1回執り行われました。基本的に、邦人滞在者の多い地域で実施されるので、ルソン島中部での実施は難しいようです。私たちにはまだ案内が届いていません。できるなら、接種会場が近隣で設けられることを願っています。

子どもたちは、昨年度は聖書大に併設されたウェスレアンアカデミーのオンラインクラスで学んでいましたが、今年度はホームスクールの運営者と頻繁にコミュニケーションを取りながら、恭子が子どもたちをサポートしています。

恭子の甲状腺嚢胞については、検査後、主治医とこれからの治療

について相談するために予約しているのですが、現在、その診療所が閉じられた状態で（もしかすると関係者に感染者が出たのかもしれない）、予約が延期になっています。

改めて予約の日時は連絡があるとのことでしたので、いつになるかもよくわかりませんが、待つている状態です。そうこうしている内に、感謝なことに恭子の甲状腺の膨らみ自体はほとんど見当たらなくなりました。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2021年10月9日

9月初頭、自動車免許をこの手に。お祈りを感謝！ 手術室の合鍵作成、ベビー服等頼まれ買い物もでき感謝。

ベビー服はもうすぐ出産予定のS宣教師への贈り物。もこもこした服は、S宣教師が荷物の総量を見ながら出発間際まで出したり入れたりして結局諦めた服とほぼ同じだったそうで、大変喜ばれたと後で伺い感謝。

9月中旬、WGMケニアの教会。ズーム参加も含む久しぶりの対面式。距離等工夫はされていましたが、クラスターなど起きないよう一部の方にお祈りいただいておりますが守られて感謝。最近では食事等は院内設備の外注等が多くなり、だいぶ楽です。

教会会で祷告課題に、テヌウェク「病院」の働きの始まりであるミセス・ストウリー元宣教師入院の報告があり皆で祈りました。その後退院、ホスピスケアに移行、9月下旬に天に帰られた事が報告されました。ケニアから、大変お世話になった日本や各地の宣教師方から、主の憐れに入られた事を喜びつつも、地上におられなくなったことを惜しむ声、お世話になった事への感謝の声などが寄せられています。

地域の特に女性に心を砕いた彼女を記念し、WGMケニアから、地域女性に聖書を配り、学ぶ会を通して「自分で」聖書を読むことを助け、必要のある女性に家畜購入や手作りの伝統家屋建設支援等をしているタビタ・ミニストリー（使徒の働き九章36節）と、数か月のコースで裁縫、作った物の販売、貯金を教え、コース終了までにミシン購入して独立できるように女性を支援しているスレッド・オブ・ホープ（希望の糸）の2つの働きに献金する事を決めました。

また、長男でアフリカ教区長のJ宣教師夫妻の再赴任後、彼女の

愛したジャカラダの植樹予定です。

9月末には世界宣教局の局員会。ズームで日本や宣教地の先生方と会議がゆるされました。

そして宣教ビデオの仕上げ。録音で囁む、編集が消える、送信直前で字幕ミス発見、送受信も何手間かかかりましたが、無事受理され感謝。

所用で地方に出た宣教師が、現地の方に「新型コロナウイルスはネットで捏造されたデマでしょ？」と言われ、「病院で奉仕しているのだから実際に患者さん方を目にしていまが……。」と返答した話を聞きました。温度差が色々あるようです。■



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2021年10月3日

「みことばを宣べ伝えなさい。時がよくても悪くてもしつかりやいなさい。」(IIテモテ4:2)とパウロが後継者テモテに書き残した聖句について、ある文筆の賜物を通して主が用いておられるご老人の伝道者との語らいの中でおっしゃられたことが心に留まりました。「現代は教会の外の人々よりも教会の中にいる人々にみことばを語るようにと言われていると思います。」

まさにカンボジア宣教における課題は「教会内に要するみことばの宣べ伝え」が問われております。その根底に信徒や伝道者・宣教師の家族がどれだけみことばを「教え、責め、戒め、また勧め」ることを「しつかりやっているか」が問われている時です。祈りの課題として祈っておりますが、9月最終日に定例のスカイプトークでカンボジアのヴァンディ先生、途中から顔を出されたテス夫人とダビデ君との再会が心を満たすひと時でした。感謝なことに祈りいただいています。感謝な障害を抱えたダビデ君も、学校の成績、聖書の知識などに秀でた成長を見せており、特に旧約聖書の通読は6回！ その知識たるや時々お父さんの記憶を超えるほどのこと。霊的面にも神様を愛し、聖霊のチェックに対する鋭敏さが養われてきて、怒りや自己主張の後、「ごめんなさい」が直ぐに言える子どもとなってきたことに、ご両親が口を揃えて感謝をしております。

しかしその背後に両親として神様との歩みの善き模範を示す責任を示され、その重要さを力説して、御夫妻は毎晩就寝前にもつ家族3人での祈りの時が、ダビデ君の今日ある恵みであることを篤く語っておられるのを聞きながら、メソジストの家族の誕生！と感謝するとともに、その歩みの完成者なる主に期待をおき、祈り合って終了。なおご一家のためにお祈りください。さて、皆様にお祈りいただいております無実の罪で投獄中のフィリピン人パウロ兄の最後の裁判が9月30日の予定でしたので、今度こそ正義の勝利を期待して祈っておりますが、またしても空振り、裁判官も告発者も姿を現さず、弁護士たちだけ、グレッグ師も入室を許されず、中何をしていても分からなかったという有り様だったようで、後から10月12日に決裁が告げられるとの通知があったそうです。信じ難い報告に心痛めつつご報告を認めております。腐敗した政治の下にあるカンボジアを変える唯一の道は、聖霊による回心によるのみ、「我ただ祈るのみ」と振り出しに戻されました。10月12日に裁判の座も開かれず、裁決宣告がされるという報告ですが、引き続き主の御名を呼び奉り御心がなされます事を信じて、祷告者の皆様方にも御礼を申し上げます。なお統衡をいただければ幸いです。またKCCの教会内伝道と霊的成長、救霊力のためにみことばが顕著に力強く宣べ伝えられるよう祈りながら感謝とともにご報告とさせていただきます。■



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2021年10月7日

8月の第一の主日礼拝から対面での礼拝が再開されて以来、9月の間も二級警戒は継続されていますので、集会の持ち方などについては同じような状態が続いています。

9月6日まで、台湾では鬼月の期間でした。農曆（旧暦）の7月1日から30日まで（太陽暦では8月8日から9月6日まで）。

鬼月の間は、「あの世」の扉が開き、霊がこの世に戻ってくるとされており、その霊たちのために（街中では以前より減っているといわれますが）軒先にお供えを並べ、線香を焚き、模造の紙幣を燃やす普渡という儀式があちこちで行われます。牧師の居住しているマンションや、教会が入っているテナントビルの入り口でも普渡の儀式が行われていました。

台湾の人口に占めるクリスチャンの割合は10%ほどと言われますが、他の宗教や土着的な習俗もまだまだ根強く残っていることを思

わされます。

9月の末には中秋節の連休もあり、教会の方などから月餅を頂いたりもしました。台湾の月餅は日本のものに比べるとかなり大きく、餡の中には塩漬けになったゆで卵の黄身が入っているものもあります。国が変わると食習慣もそれなりに変わることをこのようなことを通して日々体験する毎日です。

9月30日には久保が、その翌日にはせきなが、新型コロナウイルスの台湾国産ワクチン「高麗」の2回目接種を無事に終えることが許されました。副反応も重篤なものはないと守られていることが感謝です。

同じく9月30日には、教会の姉妹に仲介をしていただき、新しい宣教車が納車となりました。背後にあるお祈りとおささげものに感謝いたします。これからご奉仕や生活の中で車を運転することも増えてくると思われますが、事故や



危険から守られますようにお祈りください。

対面が再開されたところから、教会では有志が集まって、ウクレレの練習が始まりました。初心者が多いので最初は簡単な曲からですが、この活動が祝され、ウクレレの音楽を通して、主の恵みが表されるようにお祈りください。

警戒級数は二級が続いています。国内での新型コロナウイルスの感染者が報告されない日も出るようになりまし。教会の中でも少しずつ、対外的な案内などについての話をしようになっています。まだまだ対外的に宣伝などをする事は遠慮が必要な時期であると判断していますが、一日も早く、対外的な案内などが妨げなしにできるようになりますようにお祈りいただけますと幸いです。

■会計報告9月分

宣教献金 三、二五〇、八七〇円
月平均 一、八三八、〇六〇円

お祈りの課題

フィリピン（豊田）

◆聖書大学の学生たちと先生たちがオンラインクラスでうまくコミュニケーションが取れ、霊肉ともに守られるように

◆コロナ禍にあるウエスレアン教会の霊肉と経済の必要のために

◆事故、事件、怪我、過労、災害病、疫病から家族が守られますように。常喜の網膜静脈閉塞症、恭子の甲状腺嚢胞の回復のために
香港（鹿島）

◆引き続き集人数制限が出されている中、対面礼拝と並行して行われている教会の営みが主によって用いられるように

◆経済的な戦いの中を通している教会員の方々の上に豊かな助けが与えられるように

◆だいが感染が落ち着いたので、状況の変化の中、近隣への働きに新たな導きと与えられるように

◆国安法の下で激しい変化の中を通して香港社会の平和と政治的安定のために

カンボジア（鳥田緑乃）

◆ご両親の認知症看護で3か月間帰国されたマーク宣教師が疲れを覚えておられるとのこと、良き解決が与えられるように

◆10月12日のパウロ兄の裁判の決裁に勝利が与えられるように

◆伝道者全家族の家庭宗教の確立と救いを要するご家族の救いに聖霊のお働きが顕著に拝され、結果が与えられるように
ケニア（鳥田就子）

◆実際に免許を取得できた感謝

◆ウィルス関連のさまざまな長期ストレスの中にある患者さん、ご家族、スタッフのため

◆麻酔科、整形外科をはじめとする働き人（ルカー〇）が起こされるように

台湾（久保）

◆新型コロナウイルスの感染がさらに抑えられ日常が取り戻されていくように

◆再開している学校や幼稚園で感染の爆発がないように

◆対面の集会に新しい方が集われるように。台中教会がこの時代、この地にあつて豊かに用いられるために知恵と力が与えられるように



聖宣神学院報



Immanuel
Bible
Training
College

主の栄光のために

院長 ● 林 正弘

「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、また、これを造った。」

(イザヤ 四三・七)

個人的なことになりますが、先月、私は50回目の受洗記念日を迎えました。小さなスタートでしたが、その日から今日まで守り導いてくださった主に感謝を捧げました。洗礼式当日の記憶は曖昧な部分が多く、その集会で何が語られたのかなど、まったく覚えていません。しかし、後からその日に冒頭のイザヤ書のことばが語られたと聞かされて以来、これが生涯

の基調となる聖句になりました。

イザヤが語った当時のイスラエルは、とてもほめられた状態ではありませんでした。42章の終わりにも描かれているように、神の民でありながら神の語りかけを聞くこともせず、さばきを受けてもそれを心に留めませんでした。そのようなイスラエルに対して、主は「わたしがあなたを贖った」と語り、神の民としての存在意義は「わたしの栄光のため」というところにあると宣言してくださいました。私たちもまた、かつては神さまに背を向けて自分勝手な道を進んでいました。しかし、主イエスの

十字架の恵みにより救われ、神の子どもとなる特権が与えられました。神さまによって造られ、贖われ、生かされている私たちは、主の栄光のために生きるという、すばらしい目的が与えられています。主の栄光のために生きるといっても、その現れは人それぞれです。一人ひとりが主から与えられた目的に沿って生きることが幸いです。伝道や教会の奉仕に携わることが主の栄光のためとは限りません。自分の栄光のために奉仕することだっておりうるからです。主が自分のために備え、導いてくださる道を主への愛と感謝をもって歩むことが主の栄光のために生きることです。私にとっては、生涯を献げて主に仕えることがその道であったことを感謝しています。



後期のクラスが始まりました 蕨田聡毅先生の集中講義のクラスです

寮監エッセー

キャンプに行ってきました コーヒーをすすするように



田辺寿雄

先日、久しぶりにキャンプ場のキャンプをしました。と言っても泊りではなく、日帰りのデイ・キャンプです。夜にオンラインの集会があったので、午前中に出発し、夕方前には帰ってきました。1時間半ほどかけて行ったキャンプ場は山と川に囲まれた、とても気持ちの良い場所でした。

キャンプ場へ着くと、この日はテントは使わず、タープと呼ばれるシートだけを張りしました。少し雨が降っていたので、雨しのぎの屋根にもなります。タープに当たる雨の音が、なんとも心を和ませてくれます。昼食は途中のコンビニで買ったおでんとソーセージ、それに飯盒で炊いたばかりのご飯です。今回のご飯は少し芯が残って硬くなっていました。いわゆる「めっこご飯」です。

食事のあとは、ゆっくりと焚火の時間です。雨は降ったりやんだりだったので、ぎりぎり焚火もできました。いつものようにコーヒーの豆挽きから始まり、焚火の火で沸かしたお湯を注いで出来上

がった一杯のコーヒー。ひと口すすっては大きく「ハア」と息を吐きだし、しばらくしてまたすすって「ハア」、この繰り返しです。焚火の火を見ながら、また目の前の森の木々や川、小さな滝を見ながら、聞こえてくるのは川の音、雨の音、そしてコーヒーをすする音のみの静かな時間が過ぎていきました。

ゆっくりと過ごす焚火とコーヒーの時間は、神さまとともに過ごす時間、このように静かに、そしてゆっくりと過ごすようにと私に教えてくれます。コーヒーをひと口飲んで「ハア」と息を吐く。これをゆっくり繰り返すように、神のみことばを一つ読むごとに「ハア」と息を深く吐くようにして思い巡らしてみよう。一つのみことばを、ゆっくり、丁寧に、そして何回か繰り返し読んでみる。周りの景色を見回すように、そのみことばを通して自分の生活を見渡してみたり、心の動きを探ってみたり、言動を振り返ってみる。

聖書を読むことや祈ることを、急ぎすぎたかなと反省させられます。神さまとの時間を、テレビのCMのように早送りしたり、ネットの画面を見るようにさっさと進めようとしたら、短くて良いこともあります。ゆっくり時間をかけたほうが良いこともあります。神さまとは、急がず慌てずに、落ち着いてゆっくり静かな時を過ごせる者でありたいです。

◆学びや生活の中で想うこと

できないことを

知った夏期実習

正規コース 林 眞光まことあき

「イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。』」

(マタイの福音書一四・31)

無事に2か月の実習期間が終わり、後期の授業のために準備ができていたことを感謝いたします。久しぶりに学院に帰って寮生活を送ると学びが再スタートすることを実感すると同時に、おいしい昼食をいただけることや神学生の皆さんと交わりを持つことができるという嬉しい気持ちも沸き上がります。後期の学びと交わりも期待して臨みたいと思います。

さて今年の夏期実習を振り返ると昨年と比べて忙しかった印象を持ちました。今年の夏期実習は教団内の様々な教会に行つてご奉仕させていただいたり、礼拝説教や教団の集会のための奉仕をさせていただいたりしました。2か月間という長い期間でしたが、忙しい日々を過ごす中で終わってみるとあつという間に過ぎてしまった、そんなイメージを持ちます。そんな濃密な2か月間を過ごした実習

期間でしたが、普段の週末の教会実習では体験できないようなことを体験することができました。

例えば教会の内装の改修を行ったことです。床や壁が老朽化していたので、タイルを貼ったり壁紙を貼ったりと実務的な奉仕をしました。「これは専門の業者がやることでは!?!」と思っていたことも、先生と協力しながら行うことができました。初めてのことで戸惑いましたが、終わった後の達成感は格別でした。

また他にも祈禱会の説教や、日曜日の礼拝の説教をさせていただきましました。説教を準備する中で聖書と向き合い、自分と向き合いながら準備することができました。終わった後「もっとこうすればよかった」という反省がありました。が、何よりも自分の言葉ではなく神様が語ってくださったことを実感しました。

このように夏期実習を振り返ると、恵みに富んだ実習期間だったと感じます。しかしそれだけではなく、自分の中で課題だと感じることもありました。

自分ではできると思っていた人の話を聞くということに関して、相手の話を親身に聞くことができない愛のない自分があることに気が付きました。またやらなければならぬことを後回しにする自分の性質に気づかされました。

このことに気づいたとき、私は落ち込みました。これは自分ではきける! と思っていたことが実は

できなかったと気づいた時はなおさらでした。

しかしこの箇所から、できると思っていたペテロがすぐに助けを求めた時、イエス様がすぐに助けてくださったように私のことも助けてくださることに気づかされました。そして「なぜ疑ったのか」と問いかけるように、「もっと頼りなさい」と語ってくださったっているように感じました。

これからの学院での生活でも自分を振り返り続け、イエス様にお頼りし続ける日々を送りたいと思います。

◆学びや生活の中で想うこと

キリストの良き香り

正規コース 森 徳子のぶこ

夏期実習のためにお祈りくださり、ありがとうございます。教会という現場だからこそ学びの大切さや、葬儀など、牧師の視点から丁寧に教えていただいたり、教会員の方々の率直な声に、自身の配慮の無さに気づかされたりと、恵みの時となりました。何より、実習全体を通して主が導き、必要を与えてくださるとともに、実習後もなお必要なことを示してくださいました。



女子寮内を一部を改装し、システムキッチンを取り付けました

さて、九月末に帰院してから、後期の授業が始まるまでの一か月間は、調整週と集中講義週が交互にあります。この調整週、最初は何もすることのない休みの時とばかり思っていたのですが、実際は夏期実習を振り返りながら、主の恵みを改めて味わう時を持ちたり、Eラーニングの学びや手紙を出すなど、ペースを整えつつ、充実した毎日を送っています。

先日、近所へ買い物に出かけました。神学院を出る前から、キンモクセイのとてもいい香りがします。どこにあるのだろうと見渡すのですが、見つかりません。風に乗って香る方角を見極めつつ、そちらに向かって歩いて行くと、ありました。神学院教会の前に広がるアスファルトの片隅に、オレンジ色の小さな花をいっぱいつけ

たキンモクセイです。思わず教会の十字架を背景に、写真を撮りました。買い物から帰る際にもやはり漂ってくるこの香りに、私たちもキリストの良き香りとして持ち運んでくださるんだな、と思いました。たとえ今は良き香りとは言えないと悩んでいたとしても、神さまはいつでもその中に加えてくださいます。

「しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちをキリストによる凱旋の行列に加え、私たちを通してキリストを知る知識の香りを、いたるところで放ってくださいます」(Ⅱコリント二・14)。

夏期実習から帰院して、寮に向かう階段を下りていくと、パチパチと何かを踏みつける音がします。見ると、たくさんさんのどんぐりが。季節はすっかり秋でした。寮に入ると、新しいシステムキッチンが据えられていました。以前もミニキッチンはありましたが、温まるのにかなり時間を要することを知りになった先生方が、「不便でしょう」とご検討くださり、夏期実習の間に工事を済ませてくださったのです。スープを作りが、フライパンで炒め物ができる! 同じものを作っても、レンジとは比べられないおいしさ! 労してくださった皆さまに感謝するとともに、おさげくださった献金によることを覚え、感謝いたします。

いま神学院では……

牧会学(3)を教えます

教師●田辺寿雄



10月末から始まる後期、私は「牧会学(3)」を担当することになりました。この授業で扱おうと思っている内容を簡単に紹介いたします。

とは、聖書からも明らかです。もちろん「仕えるしもべ」としてのリーダーです。愛をもって仕えることの聖書的な意味と、それを牧会で実践するとはどういうことなのかを中心に、信頼関係を築くこと、聞くことを中心としたコミュニケーション、人を育てるためのメンターリング、伝道牧会のためのチーム作り、牧師として必要な資質と成長し続けることなどについて学びたいと思っています。

・牧師の誘惑とチャレンジについて

牧師の仕事の一つは、自分を知り続けることです。性格や賜物など、長所も短所も含めて自分がどのように造られているのか、また生まれて来てからこれまで、親や兄弟、友達との関係などを通してどのような経験を与えられ、経験からどのようなことを教えられてきたのか、どんな痛みを経験してきたのか、どんな傾向性があるのか、そしてどのようなこと（人）に対して情熱と重荷を持つようになつて来たのか、などです。神の作品である自分と神によってデザインされた自分の人生を学ぶとき、今の自分に対する理解が深まり、将来の方向性が見えてきます。自分以外の自分を生きようとするのではなく、神によって造られた自分を生きるために、とても大切な学びのプロセスかと思えます。

・リーダーシップについて

牧師はリーダーであるというこ

牧師の奉仕を続けることは決して簡単なことではありません。そこには日々誘惑があり、チャレンジがあります。孤立しやすく、公平に評価される仕組みのない職業であるゆえの特有の問題も存在します。お金、権力、性的な誘惑、批判、孤立、恐れや不安、ストレス、主観的（独りよがり）になりやすいことなど、現実には待ち受ける問題課題とその対処法について学ぶ予定です。

・牧師と夫婦・家族について

結婚している場合、牧師である前に夫・妻であり、父親・母親であることが神の前ではより大切です。そして牧師夫婦や家族の関係性は、必ず教会の働きに影響を及ぼします。牧師と信徒の家庭建設を中心とした教会建設を学べたらと願います。

牧師になって良かったなあと、最近思います。そんな気持ちを込めて教えられたら感謝です。

同窓生の近況

62期生

下関教会●久芳いずみ



神学院を卒業して早いもので7年が経ちました。卒業と共に、下関教会でのご奉仕が始まりました。この7年間で大きく「変わった」事と変わらない「もの」があります。一番の変化は、5年前に結婚に導かれ、二人でのご奉仕になりました。これまで一人でしていた働きを二人でするにあたり、主が私に語ってくださったのはスローダウンです。気づくと、すぐにマルタのように動き出してしまふ私に主がいつも言われたのは「ゆっくり」でした。今は二人のペースで進んでゆく恵みを頂いています。

教会も私自身も多くの変化がありました。それは「みことばの力」です。聖書には学院時代に書いたメモが残されています。「夏期実習を前に」、「ミッション教会にて」など、どこか緊張しながら、無我夢中で学んでいた時です。立場も環境も変わりましたが、みことばによって支えられ、導かれることは変わりません。これからも、羊飼いである主と共に、恵みの道をゆっくり歩んでゆきたいです。

神学院スタッフ…恵みの想起

心にある祈りは

図書館司書補佐 新垣重夫

神学院で奉仕をしていると、どうしても心にひっかかることはイムヌエルの神学生がいけないということ。いま現実にはこうなっているのです。この欄は「恵みの想起」ですが、こうしたことが心にかかっていることもまた主の恵みであると捉えています。

そこで僕は考えました。牧師の引退は後継者を用意してからだと。今年85歳になりますが、このことのために祈り続けています。このためには、年を取ってはおれないのです。ですからアンチ・エイジングをしながら、後継者が与えられるために心して祈っていきます。



サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。9月の会計報告をさせていただきます。

9月分支援実状

〔今年度毎月献金目標〕

¥1,500,000

教会員による

「神学院サポート献金」

¥905,650

教会団体による「神学院献金」

¥551,625

合計 ¥1,457,275

その他の献金（一時・特別）

¥31,200

・振替：00230-0-10138

学苑だより



●10月の集中講義が無事終わりました。葛田聰毅師の「キリスト教教育（青年）」は対面で三日間、葛田崇志師の「新約神学」はオンラインで四日間行われました。

●集中講義の間、食堂での昼食も再開されました。信徒方のご奉仕に心から感謝いたします。

●10月のチャペルでは、夏期実習から帰院した神学生方が担当。実習での恵みを証してくれました。

●10月26日から後期の授業が始まりました。今学期は、牧会学Ⅰ（田中進師）、牧会学Ⅲ（田辺寿雄師）、ヘブル語（川嶋直行師）、ホーリネスと神学（梅田昇師）、旧約概論（佐藤信行師）、ウェスレーの生涯と神学（藤本満師）、新約釈義演習（林正弘師）の授業が対面またはオンラインで行われます。

●OCCでの神学院の祈り会は休止していますが、試験的にオンラインでの祈り会を始めます。

公報

本部通達

「涙とともに種を蒔く者は喜び
叫びながら刈り取る。種入れを抱
え泣きながら出て行く者は束を抱
え喜び叫びながら帰って来る。」
(詩篇一二六篇5～6節)

宣教強調月間を迎えました。宣
教師とその働きのために祈りつ
つ、私たちがその働きに加わる者とし
て主が召しておられることを覚え
ましょう。宣教聖日を過ぎるとア
ドベントももうすぐです。主イエ
スを迎える心の備えをいただきま
しょう。

■本部

〈会議〉 8日(月)・9日(火)

教団運営委員会(OCOC)

(予算書承認・責任役員会・人事
委員会)

【感謝】

10月21日の教団創立記念日を覚
え、各教会では記念礼拝が行われ
ました。困難な状況下にもかかわらず
感謝献金を実施してください
ましたことを心より感謝申し上げ
ます。

▼信徒局エリアの各担当者が次の
通り任命されました。祝福をお祈
りいたしましょう(敬称略)。

エリアコーディネーター

東日本 前田敦(武蔵村山)

中部 鈴木あゆみ(岐阜)

西日本 坂岡隆司(京都伏見)

南日本 山城明(那覇)

エリア委員

〔東日本エリア〕

村岡忠至(札幌)

岩上敦郎(仙台)

櫻井和人(大宮)

越山信行(中目黒)

大塚一雄(八王子)

光榮英生(高津)

〔中部エリア〕

小原一夫(浜松)

内田信也(清水)

〔西日本エリア〕

岸川萌木(王寺)

福岡義信(香川)

〔南日本エリア〕 未定

牧師アドバイザー

東日本 館和人 寺村真弓

中部 高山清和 葛田美雪

西日本 葛田聡毅 葛田真理子

南日本 南場安正 吉村百合恵

*追加任命

信徒局アドバイザー 葛田聡毅

■国内教会局

〈地域聖会〉

◇東関東聖会/11月3日(水)

講師 古波津保秀師

YouTube 配信

◇静岡聖会(DVD聖会)

11月3日(水) 前後に各教会で開

催 講師 浜田耕三師

◇沖縄聖会/11月7日(日)

会場 那覇教会 講師 岩上祝仁師

〈教区会〉

◇11月1日(月) 四国教区会

◇11月14日(日) 中国教区会

〈教団ホームページ教会紹介〉

教団のホームページに一教会に
つき一ページで教会紹介を掲載い

たします。そのため写真・紹介文
(1000字程)・集会時間などの情
報をメールでお送りください。
送付先 京都伏見教会

igmkoto@outlook.jp

〈各集会の教勢〉

月報の集会人数のご報告は、来
年より会堂内、及び配信等に参加
されている方々も加えてご報告く
ださい。

■世界宣教局

▽運営委員会 11月4日(木) 午

後1時半

▽台湾では、9月30日に新しく購
入した宣教車が納車されました。

▽11月21日(日) は世界宣教聖日
です。お送りしたDVDや資料を

必要に応じてお使いください、ぜ
ひ世界宣教のためのお祈りにお加
わりください。

▽世界宣教献金や宣教コイン献金
に引き続きご協力よろしくお願
いいたします。

〈IWF関係〉

▽ロビン・ホワイト宣教師は、11
月に小松教会と金沢教会で賛美、

証し、説教のご奉仕をされます。

マンガミニストリー(ドローブリ

ッジ・クリエーションズ)の働き

と共に、覚えてお祈りください。

▽ホーリー宣教師は、10月にアメ

リカヘ一時帰国されました。

▽IWF理事会在が11月30日(火)

に開催される予定です。

■教育局

*教育局のホームページが絶えず
更新されています。ぜひアクセス
して、個人&教会でご活用頂ける

と幸いです。

〈教育部・生涯学習課〉

▽10月から始まった8週間のeラ

ーニング「ウェスレーを学ぶ」(藤

本満師)は途中からでも受講可。

牧師の生涯教育の一環として、牧

師・神学生・信徒伝道者への補助

あり。教育局HPから補助申請書

がダウンロードできます。記入し

て窓口 野田禎師へメール提出を。

(snoda@gmail.com)

〈教育部・信徒教育課〉

▽信徒向け聖書講座(各教会・個

人で自由に視聴可能、無料)

内容 Ⅱ「使徒の働き」の学び(第

11回目まで公開中)

講師 岩上敬人師(JEA総主事)

教団公式サイト「教育局」信徒教

育課」からアクセス可。

〈青少年部・青年課〉

▽第7回YSBリトリート

日時 11月21日(日) 15時～17時

テーマ Ⅱ「神様と教会と私の足あと」

内容 Ⅱ証し者3組の等身大の証を

中心に

申込 ⅡチラシのQRコードから

▽第2回「Re:」(旧西日本ブロ

ック青年大会)

日時 12月12日(日) 17時～19時

テーマ 「Voice リジョイス」

(主催 Ⅱ西日本ブロック、中国教区)

講師 伊藤安司師(インマヌエル

深川教会)

△ビルド(YS)から改称)

会合 Ⅱ毎月1度、テーマを決めて

Zoomで開催中。毎回15～20名

程度の方々参加中。担当窓口 Ⅱ

吉村和記師、川村和臣師

関心のある方は、教会の牧師を
通してぜひ窓口にご連絡ください。

〈青少年部・CS課〉

▽子ども用洗礼準備のしおりは今

月中に発送されます。

■聖宣神学院

▽後期教会実習 受け入れ教会に

感謝いたします。

石川順兄 東京フリー・メソジス

ト桜ヶ丘教会

林真光兄 シオン・キリスト教団

蒲田教会

森徳子姉 インマヌエル中目黒教会

▽神学院祈り会は11月1日(月)、

試験的にオンラインで行いました。

▽秋の教師会は11日(木)にオン

ラインで開催します。

▽アラムナイ・セミナーは11月

16日(火)、セミナー(石田学師)

Ⅱ午前10時、午後7時半・総会 Ⅱ

午後2時(すべてオンラインで)

▽「後援会たより」第10号が発行

されました。

消息報告



▼牧師退職に関わる「厚生委員

会相談窓口」(担当・里村佳子姉)

は、電話、またメールで相談を受

け付けています。0823(26)

8844(呉ベタニアホーム)

yoji@bethania.or.jp 余裕を

もって相談されることをお勧めし

ます。介護等のご相談、希望する

施設についての説明が可能です。

教報PDFパスワード 3579

新生宣教団 定価 一部110円(税込)

郵便振替 001107133609